

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970101311		
法人名	株式会社 アイ・エム・シー ライフステージ		
事業所名	IMCグループホームセゾン薊野		
所在地	高知県高知市薊野東町2-10		
自己評価作成日	平成30年6月13日	評価結果 市町村受理日	平成30年8月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、利用者が日々何を望んでいるかを常に考え、その人が望む事を出来るだけ望む形で実現できるように努めています。

事業所生活の中で役割が持て、自分らしく、楽しい生活を送る事ができる支援をすることは勿論のこと、当たり前に来ていたことができなくなることが、利用者にとって何より悲しい事であるという事を職員はしっかりと理解し、一人ひとりの利用者が、現在持っている力を最大限活かした生活を送れるよう、能力の維持、向上を目指して支援しています。

また、地域住民の皆様とは、年2回の避難訓練参加や、年末の餅つき、事業所の畑での野菜栽培などで協力を頂いたり、生き生き百歳体操や町内会の班会、防災会を事業所地域交流ホールで行って頂くなど、交流を深めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detai_1_2018_022_kihontrue&amp;ji_gyosyoCd=3970101311-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detai_1_2018_022_kihontrue&amp;ji_gyosyoCd=3970101311-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成 30年 7月 9日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地に近いが、田畑の残る静かな住宅地に事業所は立地しており、落ち着いた環境にある。敷地内の一角には畑が作られ、今の時期はスイカやナスなどの夏野菜が育てられている。畑には近隣住民も来てくれて、利用者とともに世話をしてもらっている。収穫した野菜は食卓にも並び、利用者の楽しみの一つとなっている。

理念や行動指針は朝礼やフロア会を活用して共有化に努め、新採職員、転入職員に対しても丁寧な研修、指導が行われており、事業所としての利用者への対応の質の向上を図っている。

また、地域の一員としての意識を高く持ち、町内会総会や地域の清掃活動に参加している。さらに、生き生き百歳体操や災害時の避難場所、防災会議等を事業所で開催する場の提供も行っており、地域にとっても必要な存在となっている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:セゾン薊野1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体法人の経営理念や、介護事業部の理念、事業所職員の行動指針がある。朝礼時に復唱し、互いに話し合いながら共有して、ケアでの実践につなげている。	朝の申し送りの後、経営理念や職員の行動指針について復唱し、共有している。フロア会でも理念について話し合い、職員の実践意識を高めている。「笑顔」「行事」「リスク」など、フロア毎に話し合って支援キーワードを定め、前向きに取り組んでいる。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属しており、総会、一斉清掃などに地域の一員として参加している。地域住民には、事業所内での避難訓練や行事などに参加してもらっており、地域との関係性を築いている。	町内会総会、地域清掃活動に各フロアから参加し、地域住民からも畑の世話や避難訓練参加の協力を得ている。また、生き生き百歳体操、防災会議開催の場の提供をし、相互の地域交流ができています。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で生き生き百歳体操を開催している。また、笑顔マイレージボランティアの登録を行っている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の支援取り組み状況、運営状況について報告し、意見交換をする事でサービス向上に活かしている。	家族からの意見は少ないが、地域包括支援センター職員や地域住民からの質問、意見等があり、運営改善や工夫に活かしている。利用者の参加はない。議事録は事業所内に掲示しているが、家族への送付はしていない。	家族に議事録を送付することで、事業所への理解を深め、意見も出されるようにするとともに、利用者の参加も促し実現するよう期待する。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者からは、必要な時にアドバイスをもらうようにしている。	行政との定期的な協議は行っておらず、相談することも少ないが、生き生き百歳体操や運営推進会議では顔を合わせ、必要な協力が得られる関係性は構築されている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成し、定期的な勉強会や、フロア会において職員に周知している。また、職員は外部の研修にも参加している。	施設長や管理者が講師を務め、定期的な勉強会を実施している。職員は外部研修も受講しており、受講後は事業所内で報告して職員間での情報共有を行い、常に身体拘束をしないケアの実践意識を持つようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待マニュアルを作成し、定期的な勉強会や、フロア会において職員に周知している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している利用者はいないが、制度について職員が学ぶ機会を持つように努めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の内容を具体的に説明し、理解と納得を得ている。また、改定の際には、その都度詳しく説明している。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは面会時や家族会開催時に意見をもらい、運営に反映させている。運営推進会議議事録は各フロアの玄関先に掲示し、公表している。	面会時や家族会開催時に家族から意見を聞いている。家族会は年2回、フロアごとに開催している。参加者は各フロアとも全体の半数以上あり、昼食を利用者とともに取るようにして、気軽に意見が聞かれる場づくりを工夫している。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会や定期的な個別の面談などで、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。	月1回のフロア会、春、秋の定期的個別面談の際に職員から意見を聞くほか、日頃、問題があるときには管理者側から解決策を尋ね、話し合うようにしている。運営に関するアイデアを出す職員もおり、積極的な活用が図られている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個人面談で職員の実績や状況を把握している。職員が向上心を持って働けるよう、職場環境と条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画書に沿って、職員は内外の研修に参加している。事業所内でも、毎月勉強会を開催している。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高知市北部地域グループホーム連絡会に参加し、情報交換を行ってサービスの質の向上に努めている。また、一宮ふれあいカフェ(認知症カフェ)にも参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家庭や入所希望者の滞在先を訪問し、要望を聞く事で本人との信頼関係が築けるように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談の機会を設け、家族の不安な事、要望を傾聴し、信頼関係作りに努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望者の状態、家族の意見などの把握に努め、個々の状態に合わせた支援の提供に努めている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの生活スタイルを尊重し、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の状況や状態を小まめに家族に伝え、共有している。ケアプランへの要望を聞き、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の了承のもと、友人、知人の面会や電話の取次ぎなど、馴染みの関係の継続支援に努めている。</p>	<p>入所時に利用者、家族から、馴染みの人や場所を把握している。来訪者も多く、行きつけの美容院に家族と一緒に通う利用者もおり、馴染みの人や場との関係が継続されている。事業所内での生き生き百歳体操に利用者も参加し、地域との新たな馴染みの関係づくりにも努めている。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係性の把握に努め、自然な雰囲気に関わり合い、支え合えるように努めている。また、交流の場の提供することで関わりが出来るよう支援している。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も、必要に応じて面会や見舞いに行き、必要などときにはアドバイスをする等、これまでの関係性を断ち切らないよう努めている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人から聞かれる要望、意向のほか、日々の生活の中での会話や表情からの把握に努めている。また、家族からの意見を得て参考とし、ケアにつなげている。</p>	<p>日々の生活の中で、会話や表情からそれぞれの利用者の思いなどの把握に努めている。「帰りたい」という思いが聞かれるが、その人の性格などに合わせて対応している。記録にも残し、全職員が共有できるようにしている。</p>	
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族の協力を得て、本人の生活歴や生活環境の把握に努めている。年代別背景シートを活用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの状態の把握が出来るように注意し、記録や申し送りなどで伝達をして、共有している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人から要望、意見を聞き、反映させている。カンファレンス時には全職員が参加するように努め、意見やアイデアを出し合っ、介護計画を作成している。	フロア会で毎月カンファレンスを行い、介護計画の検討をしている。必要があれば随時、特に状態の変化がなくても3ヶ月に一度、全職員参加で介護計画を見直し、個々の利用者に合わせて支援目標も立てている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や、利用者の状態の変化、職員の気づき等を、具体的、かつ客観的に個別記録に記載し、情報の共有に努め、介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のニーズに即時対応できるように努め、業務マニュアルに捉われない柔軟なサービス提供を調整している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、保育園、小学校などとの交流、アニマルセラピーなどボランティアを通じた利用者支援を行なっている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の主治医と連携し、本人、家族の希望に沿った医療がスムーズに受けられるよう支援している。	半数以上の利用者が家族同行で個々のかかりつけ医を受診している。受診の際には、利用者の健康状況の記録を家族に渡し、受診結果も家族から聞くようにしている。医療機関から書面で返事をもらう場合もあり、情報を共有している。事業所への協力医の往診もあり、利用されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を受け医療連携を取っており、24時間連絡が取れる体制を整えている。看護師とは必要に応じて連絡を取り相談をして、利用者の健康管理を支援している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医や病院関係者と定期的に会い、情報交換を行って本人の状態把握に努めている。出来るだけ早期に退院できるよう連携している。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を契約締結時に説明している。また、本人の状態の変化に合わせて家族と話し合う機会を設け、協力関係や方針等を共有している。	看取りの指針は入所契約時のほか、必要に応じてその都度説明している。昨年1件の看取りがあり、家族には満足してもらえ、職員にとっても貴重な体験となった。家族、医療機関、事業所間の共通認識を持ち、連携して対応している。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、事業所内で定期的に勉強会を開催し、緊急時の対応に備えている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内勉強会や、避難訓練を実施している。また、消防署の立会いで避難訓練を行い、地域の住民にも参加してもらい、協力体制を築いている。	火災、風水害、地震を想定した避難訓練を、各々年1回実施している。訓練では消防署の立会を得て、地域住民の参加もある。米、飲料等の備蓄は4～5日分が各フロアに保管されているが、整理が十分でない。	非常時用の備蓄品は、食糧と水、日用品など、すぐ分かるように整理して保管し、また、消費期限の表示も分かりやすくする等、管理方法の工夫を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者本人の尊厳やプライバシーを損なわないよう、日々の声掛けなどに十分注意して対応している。個人情報の取扱いに関しては、必ず家族の許可を得るようにしている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、日々の声掛けなどに十分注意して対応している。施設長や管理者が講師となり、事業所内での研修も実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を尊重し、何事においても自己決定できるような場面作りや声掛けを行っている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが送れるよう、希望に沿った支援に努めている。利用者個々のペースを大切に考え、柔軟な対応を心がけている。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意向を尊重しながら、整容、着衣等の支援を行なっている。訪問理美容などとの連携も行なっている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者ひとりの状態に応じて、可能な範囲で家事に参加してもらっている。また、本人の希望を聞き、食材の変更などを行なっている。	食材を切る、食器を運ぶなど、できることは利用者にしてもらっている。母体法人管理栄養士の献立に基づき調理している。言葉に出さなくても、食事状況や様子から好き嫌いを把握し、食材の変更、味付けを変えるなどの工夫をして、対応している。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に記録を取り、食事量や水分摂取量を把握している。個人の状態に応じた支援を行なっている。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをしている。一人ひとりの状態に応じた支援を行なっている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して、排泄状況の把握に努めている。また、一人ひとりに応じた排泄用品を見極め、個人の負担がかからないよう支援している。	自立している利用者が、1フロア当たり3～6名程度いる。その他の利用者はリハビリパンツとパットを使用している。オムツ使用者はおらず、一人ひとりのタイミングに合わせてトイレ誘導を行っている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行運動やラジオ体操への声掛け、水分補給や食べ物の工夫を行なっている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き、入浴意識を高めるように声掛けを行なっている。体調不良や、入浴を敬遠する利用者には、清拭や足浴などで対応している。	希望すれば毎日の入浴も可能だが、大半の利用者は入浴に消極的で、事業所として3日以上入浴しないことがないようにしている、入浴できないときには、清拭や足浴を行い、拒否する利用者には、声掛けを工夫したり、職員を交代したりして対応している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動してもらい、体調に応じて休息してもらうなど、生活リズムを整え、安心して眠れるよう支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理マニュアルを活用し、服薬の内容、用法について全職員が処方箋を閲覧出来るよう、個人別ファイルにしている。また、必要に応じて主治医、看護師、薬剤師と相談しながら支援している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や個々の状態に合わせ、その人らしく過ごせるように努めている。また、本人の要望を聞き、出来る範囲での対応、支援を行なっている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別での外出や、季節に合わせた外出の機会を作る支援をしている。	ドライブや花見など四季折々の外出は実施している。個別では希望により月1回程度近所のコンビニ等に買い物に出かけるが、外出する利用者は少ない。外出すると話題が増えたり、利用者の表情もよくなるが、外出機会は減っており、十分な支援ができていない。	施設周辺の道路はやや狭いが、涼しい時間帯に短時間でも外の景色を楽しむことを日課とするなど、外出支援の充実を期待する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預かり、管理者が管理をしている。必要がある際には、買い物の支援をしている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あらかじめ家族に了承を得ており、利用者から電話の希望があれば、取り次ぐように支援している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や生活感を取り入れ、自然な雰囲気づくりを心掛けて、利用者が不快にならないよう工夫をしている。	各フロアの共用スペースは明るく、ゆったりしていきつろげる雰囲気が感じられる。季節の花を壁に飾ったり、梅や桃、ラッキョウの瓶漬けをカウンターに置いたり、雑誌を置くなど、季節感、生活感を演出している。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースで気兼ねなく、自由に過ごしてもらえよう、椅子やソファを設置して利用者が思い思いに過ごせるよう工夫をしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にも協力をしてもらい、本人が使い慣れた家具や衣類を持ち込んでもらっており、居心地よく暮らせるように工夫をしている。	部屋はシンプルだが、利用者の持ち込まれた家具やベッドを置き、清潔さが保たれている。カーペットを敷き、自分の部屋らしく配置されている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや多目的トイレを設置し、利用者一人ひとりの状態に応じて、安全、かつ自立した生活が送れるように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:セゾン薊野2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の際に、理念と行動指針を復唱している。互いに確認し合う事で理念に対する共通意識を図り、実践につなげている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、地域の避難訓練や清掃などに地域の一員として参加している。また、事業所の避難訓練や行事等にも声かけをして参加してもらい、地域との関係性を築いている。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で生き生き百歳体操を実施したりして、地域のニーズに応えている。また、こうち笑顔マイレージへの登録や、介護職員初任者研修の現場実習を積極的に受け入れている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況や外部評価結果と対応状況等について報告し、意見等を受けてサービス向上に活かしている。また、新たな取り組みの参考にもしている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者からは、必要な時にアドバイスをもらうようにしている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止マニュアルを作成している。また、フロア会時にはケア状況やマニュアルの確認を行うとともに、外部研修にも積極的に参加して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成している。事業所内での勉強会やフロア会などで職員に周知徹底し、特に言葉掛けなどについて、日頃から職員同士で注意し合っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用の利用者はいないが、制度を理解する為の学ぶ機会を持つように努めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書により具体的に説明し、理解を得ている。また、改定がある際には、必ず説明を行い、理解と納得を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催して、出された意見は運営に反映させている。家族会では、食事をしながら家族同士の意見交換もみられている。また、フロアには意見箱を設置している。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロア会には施設長、管理者も参加し、職員から意見を聞いている。また、個人面談の機会を多く取り、職員との意思疎通を図っている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価や定期的な個人面談を通して、職員の状況を把握している。また、人財開発等の研修にも参加して、職場環境の設備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に沿って外部研修に参加するとともに、新人研修などの内部研修に取り組んでいる。外部研修受講後は、他の職員に伝達している。事業所内でも、月1回勉強会の機会を設けている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高知市北部地域グループホーム連絡会に参加し、情報交換を行ってサービスの質の向上に努めている。また、一宮ふれあいカフェ(認知症カフェ)にも参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供を始める前に、必ず訪問し、要望や意向を確認することで、安心してもらえる関係の構築に努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の機会を設け、家族の不安や要望などを親身に傾聴し、信頼関係づくりに努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接には十分な時間をかけ、入所希望者の状態や家族の意見等を把握し、支援内容や他のサービスの利用も含めた検討を行っている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者一人ひとりの生活スタイルを尊重し、共に生活する者同士の信頼関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族との連絡を小まめに行い、利用者の情報等について共有し、必要に応じてカンファレンスにも参加してもらうなど、共に利用者を支えあう関係が築けるように努めている。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の理解のもと、友人、知人の面会や電話等での馴染みの関係の継続に努めている。また、携帯電話を利用している利用者はいつでも話しができる状態であり、関係が途切れる事のないようにしている。</p>		
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の人間関係の把握に努め、日常生活の中で利用者同士が支え合い、一緒に生活が送れるよう支援に努めている。また、交流の場の提供を行い、お互いの関わり合いが持てるような支援に努めている。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も入院先に見舞いに伺うなど、これまでの関係が途切れないように努めている。また、アルバム作成などをして、渡している。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人から思いや意向を聞き、本人からの意思確認が困難な場合には、家族の意見を反映するとともに、本人の立場になって考えている。</p>		
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの年代別背景シートを活用し、生活歴やサービスの利用状況について把握している。また、入所時には家族から情報を得ている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの小さな変化にも注意し、また、記録を多方面から捉えて、総合的に把握できるように努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に利用者、家族の意見を確認し、介護計画に反映している。カンファレンスには全職員が参加できるように努め、それぞれの意見やアイデアを反映し、利用者一人ひとりの状態や、思いに即した介護計画の作成に取り組んでいる。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状況やケアの実践、気づきなどを具体的、かつ客観的に記録し、職員間で情報を共有、検討することで介護計画の見直しを図っている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のニーズに即時対応できるように努め、業務マニュアルに捉われない柔軟なサービス提供を調整している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、民生委員や馴染みの店、ボランティアなどとの協力関係を築いており、利用者の支援につなげている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望する医療機関を受診している。また、状況に応じて適時アドバイスを行い、スムーズに医療が受けられるように支援している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と医療連携を取っており、24時間連絡が取れる体制を整えている。また、必要に応じて連絡、相談を行い、利用者の健康管理を支援している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、定期的に入院先の医療相談室を訪ねて、状況の把握に努めている。出来る限り早期に退院できるように連携している。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針などを契約時に説明している。また、状態の変化に合わせて家族と話し合う機会を設け、協力関係や方針等を共有している。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。また、定期的に内部の勉強会を開催し、外部研修にも参加して、実践力を身に付けるように努めている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練のうち、1回は消防署立会いのもとに実施している。また、町内会の防災訓練や運営推進会議を通して、地域住民に参加してもらう協力依頼をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いでは、利用者の尊厳やプライバシーを損なわないよう、日々の声掛けなど接遇スキルの向上に力を入れて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を大切に、何事においても自己決定できるよう場面づくりや声掛けをするなどして、支援している。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、利用者の思いや生活のペースを尊重し、その人らしく暮らせるよう柔軟に対応支援している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意向を尊重しながら、身だしなみや化粧ができるよう支援をしている。また、理髪店、美容室との連携も行っている。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材搬入は外部業者に委託しており、利用者の嗜好に合わせた食材を伝えている。また、利用者一人ひとりの状態に合わせて、調理や盛り付け、食器等の後片付けを行っている。食事の際には職員と一緒に食事をし、会話を楽しんでいる。		
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々個別に摂取記録をとり、状態の把握に努めている。また、一人ひとりの状態に合わせて臨機応変に対応している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自分でも不十分な利用者には、支援を行っている。自分で歯磨きができる利用者には声かけをし、実施状況の把握に努めている。義歯調整や口腔内トラブル時には、歯科往診の協力機関もある。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して、把握に努めている。また、利用者一人ひとりに応じた排泄用品の必要性を検討して見極め、排泄の自立支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り薬剤に依存しないよう、個々に応じて運動への働きかけや、水分補給を行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入所前の生活習慣も踏まえ、入浴意識を高める声掛けをし、利用者の希望に応じて入浴できるよう支援している。入浴を敬遠する利用者には、毎日声かけをし、週2回は入浴するように支援している。また、状況によっては清拭や足浴で対応している。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の身体状態や生活歴も踏まえ、日中の過ごし方を支援している。昼間はなるべく運動等で活動する機会をもち、体調に応じて休息するなど、生活のリズムを整え、安心して眠れるよう支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容や用法について全職員で共有し、必要に応じて医師、薬剤師、看護師に相談しながら支援している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の主体性を大切にし、家事活動、余暇活動等の場面を提供し、その人らしく過ごしてもらえるように支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員で外出する機会以外にも、希望に応じて外出ができるように支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は管理者が行っているが、買い物時や外出時には支払いを一緒に行うなど、利用者の状態に応じて支援を行っている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話の希望があったり、家族、友人等から電話があれば、取り次ぐなどの支援をしている。また、携帯電話を利用する利用者もあり、居室にしながら自由に話しができるようにしている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で過ごせるように、家具の配置などに気を配り、ゆっくりと寛げる環境づくりを心がけている。また、フロア展示版や飾り付けにも配慮し、季節感が出せる工夫をしている。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはソファやテーブル、椅子を置き、好きな場所に座ったり、利用者同士や職員と会話を楽しむなど、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら、馴染みの家具などを持ち込み、利用者が居心地よく暮らせるように、居室環境の工夫をしている。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっている。また、手すりや多目的トイレの設置等、利用者一人ひとりの状態に応じて自立した生活が送れるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:セゾン薊野3階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体法人の経営理念や介護事業部の理念、行動指針がある。朝礼時に復唱して互いに理解、共有を図って、実践につなげている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入している。事業所での避難訓練や行事に地域住民に参加してもらっており、交流が図られている。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で説明し、理解を得ている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、家族の参加を得て、日々の事業所での取り組み状況、運営状況について報告して、意見交換をする事でサービス向上に活かしている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者からは、必要なアドバイスを得ている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを作成しており、事業所内での勉強会や、フロア会において定期的に職員に周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成しており、事業所内での勉強会や、フロア会において定期的に職員に周知している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している利用者はいないが、制度について学ぶ機会を持つように努めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除の際、また、改定の際などには、内容を分かりやすく説明している。家族からの質問には、内容に応じた説明を行っている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には運営推進会議への参加を呼び掛けている。定期的に家族会を開催し、出た意見を運営に反映をさせている。運営推進会議議事録は各フロアの玄関先に掲示して、公表している。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や、フロア会、定期的な個別の面談などで現場職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談などで職員の実績や現状を把握している。職員全員が向上心を持って働けるよう、職場環境、条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、研修計画書に沿って内部、外部の研修に参加している。また、事業所でも毎月勉強会を開催している。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高知市北部地域グループホーム連絡会に参加し、情報交換を行ってサービスの質の向上に努めている。また、一宮ふれあいカフェ(認知症カフェ)にも参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家庭や本人入所先を訪問し、困っている事や不安に思っている事、要望を聞くことで信頼関係が築けるように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の機会を設けて、不安な事や要望を家族の立場に立って傾聴し、受け止めながら信頼関係の構築に努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所希望者の状態、家族の意見、要望を基に、何が必要なかを見極め、支援方法や必要に応じてサービスの利用調整を行っていくよう努めている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの生活スタイルを尊重し、暮らしを共にする者同士の関係性を築いている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者の状況や状態を家族に小まめに伝えて、情報共有している。また、ケアプランの作成時には要望を聞き、共に利用者を支えていく関係性を築いている。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族に了承を得て友人、知人の面会や電話の取次ぎなど、馴染みの関係の継続支援に努めている。</p>		
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、互いに利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係性の把握に努め、孤立せず、互いに関わり合え、共に暮らしを楽しめるように支援している。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後もこれまでの関係性を大切に、必要に応じて面会や見舞いに行くとともに、相談を受け、支援も行えるように努めている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の日々の生活の中での会話や表情から、本人の意向の把握に努めている。また、家族からも意見を聞いて参考とし、ケアにつなげている。</p>		
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族の協力を得て、本人の生活歴や生活環境を聞き、把握に努めている。年代別背景シートも活用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの状態の把握が出来るよう記録や申し送り、伝達を大切にし、職員間で共有している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に家族、本人から要望、意見を聞いている。カンファレンス時には、全職員が参加するように努め、意見やアイデアを共有して、ケアプランに活かしている。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践状況や、利用者の状態の変化、職員の気づき等を、具体的、かつ客観的に個別記録に記載して情報共有に努め、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のニーズに即時対応できるように努め、業務マニュアルに捉われない柔軟なサービス提供を調整している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、保育園や学校等の交流、アニマルセラピーなど、ボランティアを通じて利用者の支援を行っている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の主治医との連携を行い、本人や家族の希望に沿った医療がスムーズに受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との医療連携を取っており、24時間連絡が取れる体制を整えている。また、必要に応じて連絡、相談を行い、利用者の健康管理を支援している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医、病院関係者と定期的に面会をし、情報交換を行い状態の把握に努めている。出来るだけ早期に退院できるよう連携している。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を契約時に説明している。また、状態の変化に合わせて家族と話し合う機会を設け、協力関係や方針等を共有している。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、訪問看護との連携、事業所内での定期的な勉強会において、緊急時の対応を学習している。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内勉強会、避難訓練を実施している。消防署の立会いの避難訓練には地域住民も参加して、協力体制を築いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者の尊厳やプライバシーを損ねないよう、理念の共有や日々の情報伝達により、十分注意して対応している。個人情報の取扱いに関しては、家族の許可を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から利用者の会話や表情、言動などから意向を汲み取り、出来るだけ希望に沿えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが送れるよう、希望に沿った支援に努めている。利用者の個々のペースを大切に考え、柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の意向を尊重しながら、整容、着衣の支援を行っている。また、訪問理美容との連携も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの状態に応じて、可能な範囲で家事活動に参加してもらっている。また、本人の希望を聞き、可能な限り食材の変更を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別での記録を取り、食事量や水分量を把握している。個人の状態に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをしている。一人ひとりの状態に応じて支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや習慣を把握している。また、一人ひとりに応じた排泄用品を見極め、本人に負担が掛からないように支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別での排泄チェック表への記載、歩行運動や体操、レクリエーション参加への声掛けや水分補給への声掛けを行っている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意見も聞いて、入浴への意識を高めるように声掛けを行っている。体調不良時や入浴を敬遠する利用者に対しては、清拭や足浴への声掛けを行い、対応している。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動的に過ごしてもらい、体調に応じて休息への声掛けもして、生活リズムを整え、安眠ができるように支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理マニュアルを活用している。全職員が処方箋、投薬説明書を閲覧出来るよう、個別ファイルにしている。また、必要に応じて主治医や看護師、薬剤師に相談しながら支援している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や個々の状態に合わせ、その人らしく過ごせるように努めている。また、要望を聞いて出来る範囲での対応、支援を行っている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個別での外出や散歩、季節に合わせた外出等を行っている。個人の希望に合わせて、一緒に買い物にも出かけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行っている。外出や買い物時には、支払いを本人に行ってもらおうなどの工夫をしている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があったり、家族や友人から電話があった場合は取り次ぎ支援をしている。個人宛に手紙、ハガキが届く事もあり、取り次いでいる。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りつけをしたり、家庭の感覚を味わえるように、自然な雰囲気作りを心掛けている。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂等、一人ひとりが好きな場所で過ごしたり、利用者同士や職員との会話を楽しむなど、思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力をしてもらい、出来るだけ馴染みのある家具を持ち込んでもらっている。利用者が心地よく、安心して暮らせるような工夫をしている。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっている。また、手すりや多目的トイレの設置等、利用者一人ひとりの状態に応じて自立した生活が送れるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない